

私学助成署名推進ニュース

全国私立学校教職員組合連合
No.9 2017年7月14日(金)

参加国会議員のみなさんが発した「自治体間格差の是正」

7.7.「学費の公私間格差・自治体間格差是正について考える院内集会」には、22名の国会議員ご本人が参加されました。残念ながらご公務多忙により途中退席なされた方他19名の国会議員さんが、198名の参加者に向け、あいさつをしてくださいました。5会派の国会議員さんからのあいさつは、学費問題について具体的な内容で、国会論戦のような様相を呈しました。また、父母の参加で中央要請行動も省・関係団体・政党の一部の対応に変化がありました。午後からの教育全国署名スタート集会では、私学の高校生、教員の発言が運動に向けた会場全体の空気を作り出しました。

ご挨拶くださった国会議員のみなさん (ご到着順)



上段左から福島みずほ議員、木戸英司議員、升田世喜男議員、藤野保史議員、古賀友一郎議員、磯崎仁彦議員、本村伸子議員、高橋千鶴子議員、穀田恵二議員、松木けんこう議員、
下段左から島津幸広議員、古川元久議員、瀬戸隆一議員、畑野君枝議員、吉良よし子議員、重徳和彦議員、玉木雄一郎議員、福山哲郎議員、荒井聰議員、大野敬太郎議員

2人の共同代表あいさつ後、ご到着順で国会議員のみなさんからあいさつを頂戴しました(いずれも大意)。

「声をあげたことで馳前文科相も受け止め給付制奨学金の実現につながった。声をあげていきましょう」(福島議員)、「文科省 VS 財務省というがどちらも同じ政府だ。憲法を基本に「学ぶ自由」を保障し私学を発展させましょう」(木戸議員)、「『美しい国』と首相は言うが、学費の問題で教育について苦しむ実態があって何が『美しい』のか。教育の平等をめざしましょう」(升田議員)、「現場の先生方は努力しておられる。OECD平均レベルまで党派を超えて努力していく」(藤野議員)、「意欲能力があるのに学ぶ機会が閉ざされるのは国家的損失。自己責任ではない。格差はナショナルミニマムの問題」(古賀議員)、「若い人は未来をつくる存在。公私だけでなく地方格差、地元香川の学校負担などなくしていきたい」(磯崎議員)、「みなさんの努力が経済的理由での中退を減らしている。力を合わせて格差をなくしていきましょう」(本村議員)、「私学教員出身。これまでの積み重ねでここまで来た到達点を、格差がなくなるまで共に頑張りましょう」(高橋議員)、「学生時代、自分も私学助成署名に取り組んでいた。現在は受け取る側になった。格差をなくすよう頑張る」(穀田議員)、「無償化は当然の事。経済的理由での中退の減少は成果。これをすすめ日本のHappyな将来を実現させたい」(松木議員)、「長女は公立で、次男は私学。学費負担の格差を実感している。格差をなくすよう頑張る」(島津議員)、「高校生が大人のお金の心配をしながら学ぶのはいけない。高校無償化の動きをすすめたい」(古川議員)、「自治体間格差は無くしていかなければいけない。財源の問題といっしょに考えていきたい」(瀬戸議員)、「自分の地元神奈川県では、東京・埼玉と比較しても私学への助成が少ない。自治体間格差をなくすよう頑張っていく」(畑野議員)、「私学はお金があるから行くのではない。そこで学びたいから選ぶというもの。経済的格差を学ぶ権利の格差にしないようにしていく」(吉良議員)、「国の予算を何を使うかを判断していくのが政治の役割。財源も考えつつ、経済的理由で学べないという事をなくしていく」(重徳議員)、「就学支援金がバラまきと言われたが、義務教育の教科書は誰もが無償。裕福な家庭からは所得税で払ってもらえばよい。無償化をすすめる」(玉木議員)、「ユニバーサルなものとしての高校無償化を。所得制限をなくすこと。国連人権規約留保を撤回している。無償化に憲法改正は必要ない」(福山議員)、「自分の理事長している私学で200万未満世帯が1/3。札幌の平均だった。子どもの厳しい現実を変えていきたい」(荒井議員)、「日本の課題である『地方問題』と『人口問題』の切り口は『私学』が持っていると考えている。その意味でも無償化をめざす」(大野議員)

会場を埋めつくした参加者の注目の前で、ご自身の体験、所属政党の政策、地元の声などを引きつつ、どの議員も高校生の学ぶ権利の保障、そして「高校無償化」の実現を指向する内容のご挨拶でした。

学費にかかわる切実な報告が、参加者(公私)に響いた! 教育全国署名スタート集会

中央要請行動後の公私共同「教育全国署名スタート集会」は永田町の「星陵会館」に場所を移して開催されました。今年はミニ講演による学習ではなく、「教育の無償化をすすめるのは今!」と題して、当事者の発言に基づいたミニシンポジウムをメイン企画としました。東京：大東学園、神奈川：旭丘高校の生徒さんと青森：柴田女子高校の先生にパネラーとさせていただきました(他に公立高校の父母の方)。大東学園の2人の高校生は、そこまで聞かせていただいて良いのかと思う程のご自身の切実な学費状況を発言され会場は水を打ったような静けさに充ちました。また旭丘の高校生は、権利としての私学助成について学園生徒会の取り組みとご自身の成長を語られ、これも教職員・父母の注目を浴びました。柴田女子の先生の発言は、私学の教育条件の厳しさ、そこでの生徒たちの苦勞が身に迫ってくる内容でした。いずれの発言も公私問わず参加者にこの運動の必要性を実感されました。



パネラーのみなさん
右から大東の母2人、旭丘の生徒さん
柴田女子の先生
公私共同の目標数をかかげる代表

父母の参加で「中央要請行動」に変化が…

この日の中央要請行動には、全国からの父母も多く参加。秘書・政策担当が対応となっていた、自由党、社民党でも急遽議員が対応してくださいました。社民党：福島議員は90分も父母と話してくださいました。また、都道府県議長会では、こうしてご意見を頂戴できると、国に向けての要望が出しやすくなります。貴重な機会をありがとうございます。との言葉が返ってきました。財務省では、政策効果とは何を取り上げるかのやり取りで「私学がどんな実績を出しているかですね」と言うのに対して「生き生きとした生徒の姿こそ私学の教育成果だ」と父母が返してください、財務省も「そうですね」と答えるを得ない状況も生まれました。